

## 感應同交（かんのうどうきょう）

仕事を楽しんでいるかのような仕事ぶりに、皆が笑顔になつてゐるのです。

私がいつもスーツをクリーニングに出すお店があります。ある日の夕方、スーツを取りに行くと四、五人のお客さんがお店の外まで並んでいたので、私も列の最後尾に加わりました。その

五十代の男性店員の様子を見ていると、受付をされる時、作業を始めた。私は伝票の確認や、預かったスーツを裏で探す作業、スーツを預けに来た別のお客様の伝票を書く作業などを全部一人でこなしています。それだけ並んでいるとかなり待つかも知れないなと思つていたのですが、お客様一人一人に謝罪し、手

直接、関わりのある人だけではありません。話す機会はなくとも、テレビでインタビューされている人や街角で見かけた人の立ち振る舞いを見ているだけで、活力を与えられることがあります。

猛暑の中で忙しくてイライラするなど、私たちの周りには「イラライラの種」がたくさんあります。困ったことに「イライラ」は他人にうつりやすく、どんどんと広がってしまいます。しかし、それ以上に「仏さまの種」もたくさんあるのです。



私たち僧侶は法要の最後に、「檀信徒の皆さんが仏さまと感應同交（かんのうどうきょう）》でできますよ

うに」と御祈願をします。

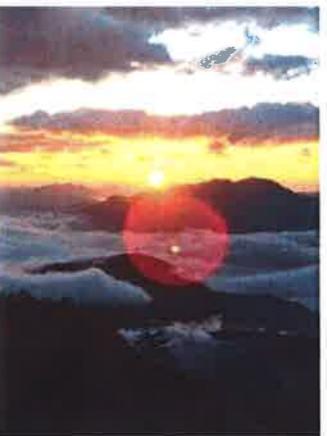
「感應」とは私たちが日常生活の中で思う事。「同交」とは、交じり合う事つまり仏さまと私たち衆生の心が交わり合いますようにという意味です。

衆生の感と仏の応が通い交わる事。

5月9日、豊前組田で参副住職と共に総本山の身延山久遠寺へ行ってまいりました。久遠寺をお参りしたのはこれで2度目ですが、今回は信仰のお山である「七面山登頂」が最大の目的。各寺院のお上人、

奥様は七面山に登られた事がないと聞き、「ならば私が連れていってさしあげなくては！」と力が湧いてきました。自分一人のためだと逃げ腰になってしまっても、どなたかと一緒にだと思うと、強くなれるので不思議ですね。

私が登ると聞き、亡くなられた奥様が愛用されていた登山シューズ、レイングッズ、ステイツクなどを譲つてくださいました。奥様は七面山に登られた事がないと聞き、「ならば私が連れていってさしあげなくては！」と力が湧いてきました。自分一人のためだと逃げ腰になってしまっても、どなたかと一緒にだと思うと、強くなれるので不思議ですね。



### 念願の七面山登山

七面山行きを初めて聞いたときは、日ごろ全く運動をしない私にとって、お寺に嫁いでから5本の指に入るほど的一大事！高いお山を登ると聞いた時は「本当にそんな事出来るのだろうか」と、不安いっぱいでした。

翌日、下山前の早朝5時にご来光を見に外へ。

前日は霧雨で見られるかどうか分からぬと言われていましたが、幸運にも一面に広がる雲海から、オレンジ色に光り輝く日の出を拝むことが出来ました。

お上人方が唱え始めた「南無妙法蓮華経」という声と共に目の前が暖かい光に包まれていく光景は、きっと一生忘れる事はないでしょう。

お寺に嫁いで良かったと、心から思つたのでした。

七面山は信仰のお山だからか、はたまた標高が高いから足を踏み入れるだけで守られている空気を感じる事が出来ます。

敬慎院に祀られている七面天女様は、頑張ったご褒美に私たちの心の鍵を開け思ひを叶えてくださるのだそう。今回登山に挑んだ全員がそれぞれの思いを背負つて登つており、

目指すのは頂上付近にある敬慎院という宿坊。ただひたすら歩いて歩いて登つて、時にはすれ違う人々と声を掛け合い励まし合い、時折訪れる休憩所では持参したチ

少しだでも多くの方が皆さまの心を得て周りの人を笑顔にする事で、仏さまの心を持つ人が一人二人と増えて広がり、またどこかで新しい出会いが仏さまの種の栄養となつて育ち、素晴らしい世界になつていくと思うのです。

### 公輔

少しでも多くの方が皆さまの心を得て周りの人を笑顔にする事で、仏さまの心を持つ人が一人二人と増えて広がり、またどこかで新しい出会いが仏さまの種の栄養となつて育ち、素晴らしい世界になつていくと思うのです。

